Kamohara (1958) が“ペニアアサヒンボ”とした標本の再同定と高知県からのアサヒンボの記録

Re-identification of the Kamohara (1958)’s “Petraites roseus” and records of Springeratus xanthosoma from Kochi


高知県産のアサヒヒゴヒズの標本は次のとおりである（変異のある計数形質については、BSKI 7703の値を括括内に示す）。背鰭棘条数III, XXVI–XXVII, 4–5 (III, XXVI, 5)。臀鰭棘条数II, 20–21 (II, 21)。胸鰭棘条数13。腹鰭棘条数13。側線線横列棘数48–52 (50)。第1鰭脚下板の骨板数7–8 (7)。脊椎骨数（前鰭骨+尾椎骨=合計）14+26=40。体高21.6–29.3% (21.6)。SLに対する百分率、以下同様）。背鰭前長は16.6–19.1% (17.7)。第2背鰭前長25.3–30.1% (30.1)。臀鰭前長45.5–49.9% (48.3)。第1臀鰭第1棘長12.8–14.2% (13.3)。第1臀鰭第1棘長5.9–7.6% (7.3)。臀鰭第1棘長6.1–6.8% (6.8)。尾柄長8.1–8.9% (8.2)。尾柄高5.6–6.6% (5.6)。頭長28.1–29.4% (29.3)。吻長19.9–23.8% (19.9)。眼長に対する百分率、以下同様）。眼間隔24.5–27.3% (24.9)。眼後長55.6–58.5% (57.3)。眼間隔幅13.5–15.1% (14.0)。上顎長39.8–43.3% (38.9)。

背鰭は2基で、第1背鰭外、第1背鰭後端の軟条は軟膜で尾鰭基部上端につながる。各鰭の軟条は分枝しない。前鼻孔の皮弁は単一分枝しない。眼上皮弁はよく発達し、薄い革状で6–8本の指状の分枝のある、前鍵骨と口蓋骨に沿う。体は皮下に埋没する小円鰭で覆われる。肛門と生殖窩を囲む皮弁(genital valve)がある。その異型は、鰭骨の交差型が長く伸ばした。生歯の時頭骨は褐色で、頭部下端と腹部は黄色みを帯びた淡褐色を、頭部後方と体側には背鰭と臀鰭にかかる8本の不透明な暗褐色横線がある。極端に続く背鰭と臀鰭の鱗の帯は不透明に透き、尾鰭中央部の鱗の帯は透明。小型個体では、眼の後下方に白色斑(BSKI 56270)や体上に暗色の小斑点が散在する(BSKI 65133)。エナノール流浸液下には、頭部と体は淡黄色から黄色で、各鰭は淡黄色から白色。

アサヒヒゴヒズは卵生であることが知られる (Gunn and Thresher, 1991; Nelson, 2006)。観察標本の在来(BSKI 55169)の卵長内には、全長約6–7mmの卵黄吸収後の仔魚が多数確認された。


Shen (1971) はアサヒヒゴヒズ属 Springeratus Shen, 1971 を設立し、アサヒヒゴヒズ属の他種は、口蓋骨鰭をもつこと、肛門と生殖窩を囲む皮弁(genital valve)が発達することで異なるとした。現在、本属にはS. xanthosoma のほかに、ニューカレドニアから記録されたS. caledonicus (Sauvage, 1874) とインド洋のモリシャスに分布するS. polyzona Fraser, 1972 が知られる (Fraser, 1972; Hoese, 2006)。しかし、Fraser (1972) は本属の有効性に凝視を呈し、広範に分布するアサヒヒゴヒズに対して再検討が必要であるとした。本稿では日本における "ベニアサヒヒゴヒズ "の記録の誤りを指摘することとする。


最後に、標本の採集にご協力頂いた矢野 誠氏および井本善次氏（高知大学海洋生物資源教育施設）、草見都彦博士（高知大学理学部）および高知大学理学部海洋生物学研究室 OB 部長、及び標本と文献を貸与して頂いた山川 武氏（高知市）、そして有益なご指導を頂いた推薦の皆様に深さ感謝する。

観察標本 アサヒヒゴヒズ: BSKI 7703, 49.9 mm SL, 60.1 mm TL (♀), 1957年12月、高知県土佐清水市付近のタイドプール、採集者：畑村 政、野田正昭、尼岡邦夫、平田常雄；BSKI 55169, 66.4 mm SL (♂), 2001年7月24日、高知県土佐市横浜半島の鼻タイドプール、採集者：中村正典、BSKI 56270, 40.6 mm SL (♂), 2001年11月2日、高知県土佐市横浜半島の鼻タイドプール、採集者：能津英俊；BSKI 65133, 52.5 mm SL (♂), 2003年6月30日、高知県織姫郡織姫町熊ノ浦タイドプール、採集者：町田吉彦、高田陽子、大場美由紀。

比較標本 アサヒヒゴヒズ : KSHS 9340, 52.5 mm SL (♀), KSHS 9341, 61.4 mm SL (♂), 鹿児島県奄美大島 (Yamakawa, 1969)。

引用文献

藍澤正宏, 1993。アサヒヒゴヒツ科, 中村敬次 (編), pp. 949, 1351–1352, 日本産魚類検索: 全種の同定, 東海大学出版会, 東京。

藍澤正宏, 2000。アサヒヒゴヒツ科, 中村敬次 (編), pp. 1087, 1601, 日本産魚類検索: 全種の同定 (第2版), 東海大学出版会, 東京。


（遠藤広光） Hiromitsu Endo · 片山英里 Eri Katayama 〒 780–8520 高知市曙町 2–5–1 高知大学理学部海洋生物学研究室 e-mail: endoh@kochi-u.ac.jp；中江雅典 Masanori Nakae 〒 169–0073 新宿区百人町 3–23–1 国立科学博物館標本資料センター）